

## 校長つうしん No.33

Sapporo  
Odori

2018.1.15

鈴木 恵一

風をうけて

ちょっと遅めのご挨拶ですが、**新年あけましておめでとうございます。**

冬季休業は気持ちを切り替えるきっかけになったでしょうか。間もなく卒業を迎える3・4年次生のなかには、引き続き就職活動や進学受験に取り組む人もいますね。気持ちを途切らせることなく、良い結果が出るまで頑張りましょう！

### なんのために働くのか



本校は「キャリア教育」を重視しながら様々な教育実践を積み上げています。開校から10年が立ちますが、この間、労働市場にも様々な変化がありました。この1年だけを振り返ってみても、世間を賑わせた話題がたくさんあります。時間外<sup>ちょうか</sup>超過勤務による過労死<sup>かろうし</sup>、自殺、精神疾患<sup>しつかん</sup>、非正規雇用<sup>ひせいぎこよう</sup>の増大、契約社員<sup>けいやく</sup>・パートタイマー・アルバイト<sup>はげん</sup>・派遣社員の無期労働契約、働き方改革など、どれも急

務の課題です。

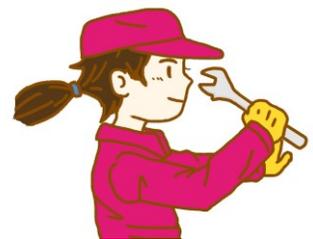
「人はなぜ働かなければならないの?」「職業観<sup>しんりゅう</sup>・勤労観ってなんだ?」

あなた自身、これまでにいろいろな教科・科目、キャリア探究などを通じて考えてきたはずです。

「食べていく(生きていく)ため」というだけでは簡単に割り切れないのが人間です。有史以来、問い続けてきた命題ですが、その答えが時代の波で大きく変わるかもしれないのです。

以前にも書きましたが、人工知能(AI)が人類の知能を超える転換点(シンギュラリティ)に到達すると、現在の4割の仕事がAIに取って代わると言われています。そう遠くはない10~20年先の話です。事実、国内では無人化されたコンビニストアが実験的に動き出しています。

“無人化”は自動車運転だけではなく、流通の各段階(生産、卸売、小売、販売、保管、輸送)で高度な研究と実験が重ねられています。そうになると、私たちが現在持っている労働<sup>がいねん</sup>の概念や職業観というものが根本から変わっていくであろうことは容易<sup>ようい</sup>に想像できます。



一般的に言われている仕事に必要な能力をあげてみましょう。

「興味・関心、意欲、知識、技術、資格、思考力、判断力、忍耐力、協調性、明朗・快活、誠実、情熱、責任感、創造性、チャレンジ精神、表現力、コミュニケーション能力……」

きりがいいですね。全部揃っているスーパーマンなんていません。集会であなたに向けて話したこと、さらに「校長つうしん No.26」で書いたことを絡めながら考えてみましょう。それは、「仕事は楽しいことばかりじゃない」という話でした。

仕事は、努力や我慢、時には苦勞が伴います。心配りや人間関係の調整に奔走することだってあるでしょう。そういう面倒なこと、厄介なことがあって、さまざまな責任が伴うから、給料という代償を得ているのです。もちろん、楽しく充実した仕事が理想です。しかし、すべての労働者が子どもの頃の夢を叶えたり好きな職業に就いて楽しい思いをしているわけではありません。

これからの10年で「働き方改革」の視点は労働時間の問題だけではなく、もっと深い根っこの部分（人間の内面の部分）が大きく変わるのではいか、と指摘されています。日本独特の採用時期（新規学卒者を4月に一括採用する方法）も変わりつつあります。また、以前は「同じ会社で同じように働き続ければ、それで老後まで安泰」「ひとつの会社に私の人生を丸抱えしてもらおう」という時代もありましたが、もうそんな時代ではありません。今後のキャリアに不安を抱えながら働いている人が増えているこの時代だからこそ、社会により近い位置にいるあなたも真剣に考える必要があります。

すでに欧米では「割り切って働く」という概念が登場しています。つまり、仕事は「あくまでも生活の糧を得る手段」であり、そこに生き甲斐、やり甲斐を求めても、今まで人間がやっていた仕事はAIに奪われてしまう。それはよく考えてみると「人間じゃなくてもよい仕事」。

仕事はAIやロボットに任せる。楽しむことや心を豊かにすること、生き甲斐は仕事に求めるのではなく、仕事を離れた余暇のなかで達成すればよい。メシが食えるだけの収入が満たされたら、それ以上は、あくせく働かない。仕事に意義や価値を求めない……という考えです。

人間でなければいけない仕事というのものもあるはずですが、そうすると、限られた仕事、職種を人間同士で奪い合うことになるのでしょうか。そこにこだわり続けていると仕事にすら就けないということも起こり得るのかもしれませんが。にわかには受け入れがたい話ですが、社会の形態によって、人の生き方や仕事のあり方も決定づけられることは間違いありません。仕事の社会的な意義を考えると共に、「わたしの人生」の意義・役割を10代のうちにしっかり考える必要がありますね。

